

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

別添資料10

公表:平成 31 年 3 月 13 日

事業所名 児童デイサービス わくわく

	チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	4			個人のスペースを持つことができるようにしている	皆が一緒に過ごす時間は集合し、遊びの時間は室内や外など子どもの意見を聞きながら、活動スペースを分け、互いに配慮し合えるような関わりを持つ	
	2 職員の配置数は適切である			4	職員が細かく連携を取るようになっている	運転できる指導員がもう一人いればスムーズになる／人が足りない為、有給消化もできず、体調不良が出ても変わりがいない／一人の負担が大きく・偏り・目が行き届きにくい	
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	4			車いすでも使用可能な作りになっている		
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	4			OJTなどの実施/3ヶ月・半年・1年と振り返りを行っている	引き継ぎ・支援会議・スタッフ会議などで話し合いを行っている	
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	4			事業所独自のアンケートも実施することで、支援に反映させている	その時にそったニーズを議題として扱い、話し合いを行う。	
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	4			公開することはアンケートをお願いする際に伝えている	ホームページにて公開	
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている			2	2	保護者に評価をもらっていること、また第三者委員の方より評価は受けている…	ハッキリとした評価は得られていない／第三者が誰かわからないが評価されることに改善はできると思われる
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	4				他事業所と協力し、勉強会を行っている	研修の案内をスタッフ全員に伝え、参加希望を募っている
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	4				職員全員が作成し共有している	計画を立てた上で、保護者と話をして改善が必要な時は手直しをしている
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している			2	2		用意はしているが活用できていない(全職員ができるわけではない)／保護者が見せてくれた場合は参考にする
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	2		1	1	スタッフの可能性と自主性に期待している	提案があればそれに対してそれぞれの思いを言える。やりたいこと・やってみたいことの具体化を大切にしていきたい／イベントごとならスタッフ会議であげている
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している			3	1	子ども・スタッフの状況を見た中で、活動内容の幅を広げている	特定のプログラムがない為／プログラムを取り入れておらず自由に遊んでいる為
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している			1	3	子どもの意見を聞きその日の内容を決めていく	個別支援計画に基づいたもの／具体的に何をどうしているということはない／季節のイベントなど行っている
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	2		1	1		プログラム自体がない為／職員全員が作り共有している
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	3		1		ホワイトボードでのその日の流れがわかるように、また大まかな業務の担当を決めている	対応が必要な時のみである／毎閉所前に打ち合わせ・引き継ぎをしている／自身の仕事や動き・利用児の確認など意見が一人ひとりから出るとよい
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	4				全体に周知が必要なことやその日に振り返りが必要な件は必ず問題定義を行う	引き継ぎという形で行っている／毎閉所後に引き継ぎ・気になった点を話す／疑問や課題・気づきなど意見がたくさん出ると効率よく話し合いもできる
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	2		1	1	注意事項など記入するようになっている(トラブル・発作・ケガなど)	自分自身がかけていない／重要性はわかっているが追いついていない／問題を問題と捉える力を育て一人ひとりの築きや疑問など感じ方の違いのすり合わせが大切
	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	3		1		保護者と話し合い必要に応じて対応している	日々の関わりの中で、スタッフの気づきを大切に、臨機応変に支援の対応をしていきたい
19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている			2	2		内容を理解できていない／知らなかった／今後、新任に対してガイドラインの熟読と説明を徹底していく	

関係機関や保護者との連携	20	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	3	1	現場のトップ・児発管が参加している	会議や集まりなど、引継ぎ・勉強のために数名で参加したり、状況に応じて誰が参加するか、誰ならできるかを考えている	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	3	1	各学校のホームページの確認/保護者からの連絡・学校からプリントの配布あり	利用希望の際に、保護者にお迎えの時間や予定の記入をお願いしており、変更の際は連絡ノートやLINE・メール・電話連絡をいただいている為、これまで通り連携していきたい	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		3	1		現在は、医療的ケアが必要な利用児はいない為、今後利用される場合は保護者と主治医と連携していきたい
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	1	2	1		開所から新一年生で受けた利用児は1名であり、卒園してからの解約であり、保護者とのアセスメントのみであった。保護者の了解のもと各機関と連携をとっていききたい
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障がい福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		3	1	必要に応じた書類作成を行っている	今年初めて、高校3年生の卒業となり、進路が決まり次第、情報共有ができればと考えている
	25	児童発達支援センターや発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	2	2		研修を通じて話を聞くようにしている	支援センターとの繋がりが持てる子どもの支援にもプラスになると思うが、そこまでのネットワークを持っていない
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		1	3	まずは同じ法人内の児童養護施設の子もたちと避難訓練や行事で関わっている	まだそこまで上げられる自信がないこと、交流を持てる相手がいらないこと、保護者の意見も含め慎重にしたい
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	4			毎回、出席させてもらっている/今年度は副議長をさせてもらった	今後も横のつながりを大切にしながら、情報交換や意見交換をしていきたい
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	4			連絡ノートや送迎時、電話(メール・LINE)を通じて日々連携を行っている	これまで通り、丁寧に対応していきたい
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	1	1	2	モニタリングや電話相談を受ける中で、アドバイスなどできることでの対応をしている	様々な保護者の相談や悩みに向き合えるよう、スタッフ一人ひとりが知識をつけ、寄り添って問題や課題に対応していきたい(共に考え悩み、謙虚に対応を行う)	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	3	1		契約時に説明を行う	制度や規定が変われば、書面や保護者会で必要に応じて説明を今後も行っていききたい
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	3	1		話を聞きながら、対応させてもらっている	ハッキリ答えられていないことはあるが、わからないことは児発管に伝えることで、保護者の悩みをつなぐことをしている
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	4			保護者会を開く中で保護者同士に任せている	スタッフからは、積極的に保護者同士の連携を勧めてはいない。それぞれの思いや状況もある為、必要に応じて保護者会やイベントでの関わりを持ってもらい意見交換してもらえたらと思う。(保護者の連携は力にもなり、大切だと感じている)
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	4			スタッフで相談し、できることできないことを判断した上で対応を行う(個人で判断をしない)	苦情まではいかないが、相談があればすぐに改善できることは迅速に対処し、できる範囲内で配慮を行い、保護者へ現状を報告と対応を説明する
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	4			月1回の事業所通信を発行している	行事予定やお知らせ、お子さんの写真を載せることで、普段の活動の様子をお伝えしている
	35	個人情報に十分注意している	4			働く上で守秘義務についての同意書に全員サインしている	書類の持ち出しは基本しない/必要に応じて持ち出しの表へ記入し管理とチェックを行う
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	3	1		連絡ノートでは書ききれない伝えきれないことは直接送迎時や電話連絡することで対応する	お子さんのことでわからないことは、保護者の方に連絡ノートや送迎時に確認するようにしている(教わる)
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に関わった事業運営を図っている	3	1		法人のイベントにブースを持って関わっている	事業所だけで招待できるようなイベントがない/利用児の通う学校の先生の見学はある

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	2	1	1	マニュアルを生かすために連携の強化を行う	マニュアルはあるものの、マニュアル通りで済むことの方が少ない為、臨機応変に対応すること、またその都度マニュアルの変更を行っていくどのような面に遭遇してもチームでどう連携できるかが大きい為、普段の報連相をしっかりとしていきたい
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	4			毎月行われる避難訓練に参加	防犯・防災研修の参加、赤十字の研修や防災グッズの見直しを今後も定期的に行う
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	4			1年に一回行われる大阪府の虐待研修に参加している	スタッフの虐待研修参加後、事業所内で伝達研修を行い、全体の周知とスタッフのストレスチェックをこれまで同様行う
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	4			ファイル・書類を作成し、保護者へ説明と書類提出を行う	身体拘束が必要な利用児に対して、事前に保護者へ説明し納得した上で、同意書の記入を行い、実際に起きた場合はすぐに電話連絡を行い対応する
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	1	1	2	保護者に確認し配慮している	アセスメントでの確認と今年度はおやつを提供するにあたり、保護者にアンケートを実施
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	3		1	法人で開かれる福祉介護サービス相談委員会にて発表している	日々の記録とは別にヒヤリハットの用紙を作成し、スタッフで必要に応じて引き継ぎを行い、対応の見直しを行う